

【数字を読み解く】 マイナス 37.8%

～7月の県内延べ宿泊者数の前々年比伸び率 「旅割」で県内発地はプラス～
＜2021/9/3 大分合同新聞掲載＞

数字は、大分県が毎月公表する「観光統計調査」にある、7月の県内における延べ宿泊者数の前々年比伸び率（速速報値）だ。本調査は、行政の観光振興戦略や観光事業者のマーケティング活動に役立つことなどを目的に実施しており、宿泊客数の動向と有料観光施設の入場客数が毎月公表されている。

宿泊者数については、従業員数10人以上の全宿泊施設（今年1月時点・186施設）、主要有料観光施設は30施設がそれぞれ対象となっている。なお、「速速報値」は回収率が低いため、調査年の翌年7月ごろに公表される「速報値」および、翌々年7月ごろに公表される「確報値」とは差が出る可能性がある点には留意が必要である。

県内の7月の延べ宿泊者数は23万5638人と、新型コロナウイルスの影響がなかった前々年対比マイナス37.8%となった。6月（前々年比マイナス62.9%）に比べるとマイナス幅は縮小したものの、依然として低い水準にある。発地別にみると、国外（同マイナス95.3%）はほぼ皆無の状態にあるほか、県外（同マイナス34.7%）も大幅に減った。一方、県内（同プラス16.0%）は「新しいおおいた旅割」の効果もあって新型コロナウイルス拡大前の水準を上回ったことが特徴だ。ただ、8月以降、宿泊施設からは「新型コロナウイルスの再拡大によりキャンセルが発生しているほか、8月18日からの新しいおおいた旅割の新規予約停止もあり、厳しさが増している」との声が聞かれる。

今後も、県内および全国の感染者数の動向と、それが家計の消費マインド等に与える影響について、注視していきたい。（日本銀行大分支店）